

ルワンダ月報（2021年8月）

※以下は、明示的に記載されたものを除き、ルワンダ通信局（Rwanda News Agency）の記事のとりまとめ。

1. 内政・外政

- 2日、サミア・タンザニア大統領がルワンダ訪問。カガメ大統領と会談し、ICT、出入国管理、教育、医薬品規制の分野における二国間覚書に署名。
- 2日、カシリ・ジンバブエ国防大臣がルワンダ訪問、ムラシラ国防大臣を表敬。
- 5日、トゥアデラ中央アフリカ共和国大統領がルワンダ訪問。カガメ大統領と会談し、経済計画、鉱業、治安部門改革、運輸交通に関する二国間覚書に署名。 6日にはムラシラ国防大臣を表敬し、両国の軍事協力強化について協議。
- 6日、ニャガタレ郡のカギトゥンバ・ワンストップ・ボーダー・ポストにおいて、ウガンダ当局が23人のルワンダ人を強制送還。 強制送還の理由は明らかにされていない。
- 6日、ブルンジ・カヤンザ県知事がルワンダ・南部県知事を訪問、7名のルワンダ人不法滞在者をルワンダ側に引き渡した。 また、両国国境の治安維持のため協力することに合意した。
- 9日、モザンビーク派兵中のルワンダ軍が北部の港湾モシンボアダプラを奪還。
- 11日、2021年9月20日より、フランス大使館内に「人道に対する罪、ジェノサイド、戦争犯罪と戦うための中央事務局（OCLCH）」のリエゾン・オフィサーを配置。駐ルワンダ仏大使が発言。
- 12日、デサレン・エチオピア前首相がカガメ大統領表敬。
- 12日、コホ・ガボン社会問題・女性の権利大臣が率いるガボン政府使節団が、ルワンダ捜査局（RIB）の案内により、キガリ市内のイサンゲ・ワンストップセンターを視察。 同センターは女性及び子どもに対する暴力の被害者への包括的なサービスを提供している。ガボン使節団は同国に類似のシステムを整備するために視察した。（当館注：日本は令和2年度補正予算によるUNDP案件を通じて、同センター職員のコロナ対策のための個人防護具を供与している。）
- 13日、グンザ・アンゴラ総括監察官がルワンダ国家警察を訪問。 同総括監察官は、ルワンダの汚職対策政策及び贈収賄防止の施策に関する調査のためルワンダを訪問中。（12日）
- 14日、カガメ大統領夫人が北部県ブレラ郡のUniversity of Global Health Equity（UGHE）の理事に任命。 同夫人は、バフェット財団のグローバル・プログラム部長とともに諮問委員会の共同議長を務める。
- 14日、ルワンダがコンゴ（民）領内の金鉱石を不正に精錬して金銭化しているとする国連レポートに対し、駐コンゴ（民）ルワンダ大使が現地メディア（Radio Okapi、国連コンゴ民主共和国安定化ミッション（MUNUSCO）がスポンサーとなっている）の

インタビューで反論。

- 21日、モザンビーク派兵中のルワンダ軍が、モシンボアダプラ港湾に続きムバウ（Mbau）をイスラム過激派から奪還（20日）。
- 20日、武装組織の創設等の罪に問われているポール・ルセサバギナ氏の判決が9月20日に延期。（The East African）
- 21日、ルワンダ政府が、犯罪の嫌疑がかけられたブルンジ人2名をブルンジ政府に引き渡した（20日）。
- 24日、ルワンダを含む親米国13カ国がアフガニスタン難民の一時受け入れに合意。アフガニスタン人は米国への移住が認められるまでの短期間滞在する予定。
- 25日、タンザニア人民防衛軍（TPDF）のマベヨ参謀総長が、ムラシラ国防大臣及びカズラルワンダ国防軍（RDF）参謀総長と会談。
- 25日、ルワンダ国家警察とレソト騎馬警察サービスが協力のための覚書を締結
- 27日、「G20 Compact with Africa」首脳会議（於ベルリン、独主導の対アフリカ投資促進のための会議）出席するために訪独中のカガメ大統領は、フォン・デア・ライアン欧州委員会委員長と会談、ワクチン製造等の協力について意見交換を実施。
- 27日、カガメ大統領はホイヤー欧州投資銀行（EIB）総裁と面談し、kENUP財団（注：EU関連の非営利団体）が主導するアフリカでのワクチン製造について意見交換を実施。EIBはkENUP案件に対する融資を前向きに検討するとしている。同大統領とホイヤー総裁はほかに、2018年に調印された、キガリの下水処理設備並びに下水配管建設プロジェクト（486億ルワンダ・フラン（約4,870万米ドル））についても意見交換を行った。
- 27日、独ビオンテック社が、ルワンダとセネガルにおけるマラリアと結核のmRNAワクチン製造拠点の設立へ向けた評価を行うことに合意。kENUPの呼びかけにより、カガメ大統領、サル・セネガル大統領、ライアン欧州委員会委員長、及び同社が協議を行い、協議後に共同コミュニケにより発表した。
- 30日、アビィ・エチオピア首相がルワンダ訪問。カガメ大統領と、二国間関係、地域・世界情勢について協議（29日）。
- 30日、新設された国民統一・市民参画省の大臣にジャン・ビジマナ氏が任命
- 31日、仏当局は、虐殺首謀者として起訴されているアガサ・カンジガ氏（ハビヤリマナ元大統領夫人、仏在住）の不起訴申し立てを棄却（30日）。

2. 開発協力

- 5日、EUがマハマキャンプの難民支援のためWFPに50万ユーロを拠出。
- 5日、Africa Medical Supplier社がRBCにコロナ対策用のフェイスマスク38万枚（9万米ドル相当）を供与。
- 13日、ルワンダ政府とベルギーの開発機関（ENABEL）が、ワクチンをはじめとする医薬品の国内製造に向けた準備を活性化するため、バイオテクノロジー産業におけるエコシステム強化のため連携すると発表。

- 13日、財務・経済計画省とUNDPが人間開発報告書を発表。1990年から2019年の間に、ルワンダの人間開発指数は0.243から0.543に上昇（119%増）、平均寿命は35.6歳に延びたほか、平均就学年数が2.7年延び、期待就学年数は5.5年延びた。一人当たりGNIは同期間に130.9%の成長となった。
- 16日、社会的企業のWater Access Rwanda社が、ルワンダ水資源庁とともに、キガリ市内の世帯・学校・教会を対象に、天水農業及び安全な水のためのプロジェクトを開始。
- 19日、米国がCOVAXを通じて供与したワクチン18万8,000回が到着。米国は同週に30万回分も追加で供与予定。
- 19日、中国が供与したシノファーム製ワクチン20万回分が到着。

3. 経済

- 3日、ルワンダが外貨建て国債の発行により、6億2,000万ドル相当を調達。調達資金は、2023年に償還を迎える外貨建て国債の借換えのほか、コロナ禍からの経済回復等に充てられる。
- 10日、ルワンダ証券取引所が初めて社債を取引。独立発電事業者（IPP）のENERGICOTEL社の長期固定金利（13.75%）の65億ルワンダ・フラン（約640万米ドル）の社債で、第1トランシェの発行額は35億ルワンダ・フラン（約340万米ドル）。
- 13日、ルワンダにAUが支援するアフリカ電子商取引センターの本部を設置予定。カガメ大統領と、同センター後援者のデサレン・エチオピア前首相との会談で決定。
- 16日、石油価格抑制のための政府補助金を今後2か月間は継続、石油価格据え置きを発表。

以上